

会社法の学びを通じて生涯付き合える友を得ること

鈴木千佳子 法学部法律学科 教授

コーポレート・ガバナンスやファイナンス、M&Aに関する法制度などについて学ぶ研究会。3・4年生合わせて50人以上の学生が在籍しています。

法学部ではほとんどの学生が会社法に就職することから、会社法は役に立ちそうだというだけで、毎年、入ゼミ希望者が大勢やってくるが、実際は、大部分がゼミに入るまで会社法は深く勉強したことがない。そのため、彼らは、一見無味乾燥に思える膨大な条文をみると、それだけで圧倒されてしまう。しかし、私は、条文の内容をただ覚えることに終始するのではなく、「なぜ、このような規制がされているのか」を考えてほしいと口を酸っぱくして言っている。会社法は企業活動の変革とともに頻繁に改正が行われるから、枝葉末節の知識ではなく、社会に出てからいつでも自分でその先を学べるように、基礎だけは十分に勉強できる環境を与えたい。また、4年生には、必ず卒業論文を課している。自分の手でテーマを探し、自分が発見した疑問に自ら答えを出してほしいので、先回りしないで、その過程をゆっくりと腰を据えて見守ろうと思っている。

からゼミの授業を担当しているが、長年のゼミ生たちとの付き合い、そして、かつて自分も慶應義塾大学法律学科の学生であったときの経験から、ゼミの仲間の大切さは身に染みている。偶然ゼミの一員として出会い、飲み会、ソフトボール大会、合宿、サブゼミなどを通じて、ダメなところも知っているが、それ以上にそれぞれの良さを認め合い、今も互いに励まし合える仲間を保持することは、とても大きな財産だ。ほとんどの学生がサークル・体育会などの課外活動や資格試験などで多忙な時間を過ごしながら、決してゼミでの活動に手を抜くことはない。ゼミ生が、ゼミをただの授業の一つではなく、常に笑いの絶えない楽しい特別な場所となるよう努力してくれているおかげで、2年を一緒に過ごした同期の間には固い絆ができる。卒業生から「ゼミに入ったおかげで一生の友人を得られた。会社法の勉強は、社会に出て本当に役に立った」と言われることが、私の一番の喜びである。

学生生活を彩る環境

鈴木千佳子 法学部法律学科 4年

鈴木千佳子ゼミでは、基礎部分の学習を入念に行います。そのため、「会社法」は3年生になって初めて学習を行います。誰一人後れをとることはありません。グループ学習やゼミでの議論も、全員が主体的に参加します。また、鈴木先生はゼミ員の多様性を非常に重んじてくださいます。体育会、サークル、会計士志望など、ゼミ以外の場でも活躍する者が多く所属し、今まで出会うことができなかった、様々なバックグラウンドを持つゼミ員と交流ができるのも、このゼミの特徴です。魅力的なゼミ員に囲まれ、充実した学習を行うことができるこのゼミは、私の大学生活に彩りを与えてくれます。



薬物の恩恵をすべての人に

人類にとって、薬はなくてはならない存在です。しかし、薬の恩恵を十分に受けきれない人も多く、そのよくな人々をサイエンスの力で減らすのは薬学研究者の使命です。現在、薬の恩恵を受けきれない人々の代表例は、胎児への悪影響を心配して使用が控えられがちな、妊婦とその胎児です。私たちは、母体と胎児の接点となる胎盤の研究を行っています。妊娠すると、胎盤は2カ月余の期間で急速に発達し、胎児に通すべきものを選ぶ「関門」の役割を果たします。胎盤で「門番」をするのは、通す物質と通さない物質とを選択する、トランスポータータンパクです。この「門番」による薬の選択機能を明らかにし、その仕組みをうまく活かすことで、妊婦や胎児における安全で有効な薬物治療を実現することを目指しています。また、胎盤は単なる「門番」ではなく、多様な伝達物質を分泌することで情報発信を行うため、胎児成長に必要な母体および胎児環境形成に向けた「司令塔」の役割も果た

します。胎盤がどのように胎児を守り、そして育てているのか、生命誕生へのプロセスを明らかにする研究は、大変魅力的です。

卒業生・修了生の就職先は、薬に関連するあらゆる領域であり、病院、薬局・ドラッグストアはもちろん、製薬会社、医薬品開発受託機関、出版社、大学や行政機関も数多く含まれます。社会を先導するには、問題を発掘し、解決する能力が必要です。薬剤学講座の学生・大学院生は、おのおのが研究プロジェクトのリーダーです。リーダーとして、仮説を検証するための研究計画を立案して実験を行い、その結果を文献情報とともに評価し、洞察するプロセスを繰り返します。このプロセスは論理的判断力を鍛える実践の場となり、下した判断は、周囲との議論の中でさらに磨き上げられていきます。

研究室から巣立った卒業生には、鍛え上げた問題解決能力をそれぞれの環境下で発揮し、社会に貢献してほしいと願っています。

薬剤学講座では、妊婦や胎児に特有の薬物の動きを理解するため、約30名の学生と共に、妊婦のみに存在する臓器、胎盤の研究を行っています。

登美斉俊

薬学部 教授

「自由」 + 「責任」 = 「自律」

田辺美那子君 薬学研究科修士課程1年

薬剤学講座は個人の自由や多様性を尊重しています。1人1つの多様性に富んだ研究テーマが与えられ、おのおのが自由に研究を行っています。一言に自由と言ってもそこには責任が伴い、研究室での生活を通して自分自身をコントロールする自「律」の力を身につけることができます。研究は個人プレーを進めていきますが、わからないことやうまくいかないことがあると先生方や先輩方が親身になってサポートしてくださるので、心配は要りません。薬剤学講座での経験を通して、ただ実験ができるようになっただけでなく、自律の力を養い、人としても成長できると実感しています。

